

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

申請番号： 20-153

① 試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

・ 研究課題名：T4b大腸癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術におけるリスク因子と予後の比較検討

・ 目的： 大腸癌に対する腹腔鏡下手術は本邦において広く普及してきている。進行大腸癌に対する開腹手術と腹腔鏡下手術の根治性に関する大規模ランダム化比較試験 JCOG0404 では開腹手術、腹腔鏡下手術共に良好な 5 年生存率であった。しかしサブグループ解析で T4 症例の予後が悪い傾向が示された。本邦における 2017 年度の癌罹患数は大腸癌が最多であり、進行症例も多い。実際の臨床では、T4 症例の中でも特に進行している T4b 症例に対しても腹腔鏡下手術を行う機会が多い。T4b 大腸癌に対する開腹手術と腹腔鏡下手術のリスク因子や予後の比較・検討を行い、腹腔鏡下手術の妥当性・安全性を検討したい。

・ 研究期間： 臨床研究 IRB 承認日～2023/3/31

・ 研究対象： 2007/4/1～2015/12/31

② 利用し、又は提供する試料・情報の項目

： 年齢、性別、BMI、アルブミン、総コレステロール、総リンパ球数、CRP、ヘモグロビン、術前 CEA 値、術前 CA19-9 値、術前合併症の有無、抗血栓薬内服の有無、術前の絶食の有無・絶食期間、前処置の有無、術式、手術時間、出血量、輸血量、癌占居部位、緊急手術の有無、手術待機日数、郭清度、合併切除臓器、深達度、組織型、リンパ節転移、遠隔転移、病理学的ステージ、リンパ管侵襲、静脈侵襲、術後合併症、術前および術後化学療法の有無と内容、再発の有無と再発部位および時期、再発後治療内容、生存期間

③ 利用する者の範囲

： 消化器外科 助教（臨床フェロー）片岡 温子

④ 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

： 消化器外科 助教（臨床フェロー）片岡 温子

